



早春の息吹

かわいらしく鮮やかな紫色をしたスミレの花。スミレという名前は、花の形が、大工さんが使う道具「墨入れ」に似ているところからつけられました。スミレの花びらが開いているのはあと少しの間です。スミレは、5月中旬から秋までは、つぼみはつけ続けるのですが、花を咲かせずに種を実らせませす。スミレは『閉鎖花』と呼ばれる花の仲間で、つぼみの中で自家受粉をすることで、花を咲かせるよりも効率よく子孫を増やすことができます。また、同じ遺伝子の種をたくさん作った方が植物同士の競争に勝てると思ったのかもしれませんが。

自家受粉ができるなら、昆虫などに花粉を運んでもらわず、自分だけで生きていけるかということ、そうではありません。スミレの種はアリの好物「エライオソーム」に覆われています。アリは種をせっせと巣に運びますが、種は食べないので巣穴の外へ放り出します。そこには土や食べ物のかすなどの養分もあり、スミレにとってもってこいの環境があります。スミレがコンクリートの割れ目などに咲いているのはこのためで、アリによって種まきをしてもらっているのです。

私たちも、気が付いていないだけで、誰かに助けられながら生活をしていることが、たくさんあります。

森	の
日	記

フクジュソウ

3月11日(日)

春らしい日差しに恵まれたこの日、陶史の森のウサギ舎の前に福寿草が一輪咲きました。例年2月には咲いていたのが、今年は1カ月も遅くなりました。今冬は厳しい寒さが続いたからだと考えられます。この福寿草は自生ではなく植栽されたものです。



サクラの植樹

3月11日(日)

駄知町の38同年会（昭和38年に中学校を卒業）によって、ソメイヨシノの植樹が行われました。厄年の記念に植えたものが枯れたりしたため、植樹し直したものです。今回の植樹は3回目で、約50人の方によって25本の苗木が植えられました。



教室のご案内

5月

●『陶史の森』写生会(要申込)

5月3日(木・祝)・4日(金・祝)9:00~15:00
陶史の森の自然や動植物を絵画にします(雨天中止)。対象は、保育園・幼稚園児、小学生です。作品はネイチャーセンターに展示し、入賞者には賞状・賞品があります。

※画用紙、画板は陶史の森で用意します。

●バードウォッチング(自由参加)

5月27日(日)9:00~11:30
初夏の野鳥を観察(雨天中止)

6月

●ホテル観賞会(自由参加)

6月9日(土)18:30~21:00
ホテルの生態を知り鑑賞(雨天中止)

●ミツバチ教室(要申込)

6月17日(日)9:00~11:30
ミツバチのはちみつ搾りを体験

●バードウォッチング(自由参加)

6月24日(日)9:00~11:30
夏の野鳥を観察(雨天中止)